

# ボランティアセンター 自己点検・評価報告書

## I. 理念・目的

### 1 目的・目標

#### (1) ボランティアセンターの理念・目的

正課外教育の観点から、学生のボランティア活動を推進し、そのことを通して学生の社会性及び自主性を涵養し、社会に有用な人材を育成しようという理念に立っている。その理念の下で、明治大学ボランティアセンター（以下、VC）規程第1条では、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、社会に貢献し得る有用な人材を育成することを目的とする、と規定されている（資料1-1）。

### 2 現状（2011年度の実績）

#### (1) センター、委員会等の理念・目的は適切に設定されているか

##### ①理念・目的の明確化

「明治大学ボランティアセンター規程」第1条で設定されている（資料1-1）。

##### ②実績や資源から見た理念・目的の適切性

明治大学VCは、上述のような目的の下で、駿河台、和泉及び生田の各キャンパスに設置されている。VCでは、学生のボランティア活動を支援するため、学生支援事務室所属の課外活動担当の専任職員4名が兼務であたるとともに、3キャンパスVCに嘱託職員1名計3名を配置して、大別して次の4つの業務を行うこととしている（資料1-1）。

- 1 ボランティア活動に関する情報収集・広報活動
- 2 ボランティア活動に関する相談・支援
- 3 ボランティア活動に参加する学生の人材養成
- 4 ボランティア活動に関する調査・研究

なお、VCは2008年度の設定にあたって、これに先だってスタートしていた、学部等で行われている学習支援を主体とするボランティア活動には関与しないとの暗黙の了解があった。そのために、学習支援としてのボランティア活動の促進やその支援は行っていない。

2011年度、VC運営委員会では、これまで明示されていなかった外部団体の分類と外部団体からの情報の取り扱いについて、「外部団体の分類と外部団体からの情報の取り扱いについて」を定め（資料1-2）、統一して活動することとした。また、これまで懸案となっていた、3つのキャンパスVCへのボランティア・コーディネーターの配置と、それに伴うVCの組織変更を内容とする政策経費の要望を提出することにした（資料1-3）。

なお、2011年度、東日本大震災の発生を受けて、本学では学長の下に「震災復興支援センター」が設置された。VCは、当センターと連携して、東日本大震災被災地におけるボランティア活動・支援のあり方に関する勉強会と学生への注意喚起、東日本大震災被災地支援義援金募集活動の実施（駿河台・和泉・生田各キャンパス）、東日本大震災被災地におけるボランティアの募集、東日本大震災被災地におけるボランティア活動に伴う旅費交通費の一部を補助する助成措置の申請の受付等を行った（資料1-3）。

3つのキャンパスのVCでは、駿河台が千代田区と連携して「防災」を、和泉が杉並区と連携して「福祉」を、生田が川崎市多摩区等と連携して「里山」を、それぞれテーマとして、後述の「Ⅷ 社会連携・社会貢献」で詳述するような活動を展開している。

本格的な活動を開始して4年目にあたる2011年度、3キャンパスVCの活動はプログラムの充実や学生の参加度などにおいて、未だに不均等に展開している。なかでも生田VCの精力的な活動（資料1-4）に対する和泉・駿河台VCのその遅れという課題を内包しつつも、活動のメニューとしてはほぼ出揃ってきている。この実績からみて、3キャンパスVCの不均等発展を別にすれば、VCの理念と目的は十分に適切であると考えられる。

### ③ 個性化への対応

VCの活動を個性化するために、先行している他大学の事例を見学・視察するとともに、VC担当者や他のボランティア関係団体の担当者と情報及び意見交換する等、調査・研究を進めている（資料1-3）。

一方、駿河台・和泉・生田の各キャンパスにVCが設置されてはいるが、大学構成員に理念・目的を始め、その活動内容、加えてVCの場所などの基本情報についても、必ずしも十分に周知されているとは言いがたい側面もある。そのため、今後も引き続きこれらを含めた情報発信に務める必要がある。

## (2) センター、委員会等の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか。

2011年度には、和泉VCではボランティア活動を紹介した「ぼらぼん」（資料1-5）、生田VCでは「生田ボラ」（資料1-6）を発行し、学内外に活動報告を積極的に発信した。またHPもリニューアルしニュース、イベント等の情報を分かりやすく発信した（資料1-7）。

2008年度は教職員に対して、活動や関心領域に関するアンケート調査を実施したのに対して、2009年度にはHPの立ち上げを行った。学生も含めた周知方法は、HPの活用とポスターなどの掲示と窓口における働きかけが主体となっている。規程や登録要領などをVCのHPに公開している（資料1-8）。

## (3) センター、委員会等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

VCの理念・目的等を定期的に検証する仕組みは、まだ導入していない。現状では、後述するVC運営委員会が業務の計画を立てる段階で、これまでの事業を当VCの目的との関係において検討し、それについて業務・計画を見直すことになっている。しかし、業務の稼働が始まったばかりであり、定期的な検証システムの構築には手が付けられていない。

## 3 評価

### (1) 効果が上がっている点

- 各キャンパスのVCでは、それぞれ特色ある取組みを展開している。駿河台VCは、千代田区との連携による災害救援ボランティア活動を行うなど「防災」をテーマに展開している。和泉VCは、学生団体と障がい者によるパン販売、またハンディキャップを持つ方々との交流を積極的に行うなど「福祉」をテーマに展開している。
- 生田VC「里山班」及び「エコキャップ班」は、通常の活動にとどまらず、学内外の各種

ボランティア関係イベント等における活動成果の発表，近隣住民との協働，小学生への啓蒙活動，環境活動コンクールへの参加など，活動の発展・充実を見た（資料1-4）。

## (2) 改善すべき点

- ・ VC運営委員会において，1年ごとの業務検証と併せて，VCの理念・目的等を定期的に検証する仕組みを導入する必要がある。
- ・ 和泉・生田VCの活動に比して駿河台VCのそれが後れているので，駿河台VCの活動を活発化させるとともに，和泉VCにおいて活動していた学生の駿河台における活動の継続を保証するようにする必要がある。

## 4 将来に向けた発展計画

### (1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

- ・ VC運営委員会の開催を定期化し，これまでの1年ごとの業務検証を，半年ごとの業務検証へと変更する。
- ・ ボランティア・コーディネーター2名の採用を受けて，VCの活動のさらなる活発化，なかでも和泉VCにおける組織の見直しと，和泉VCにおける活動を駿河台VCにおけるそれへと継続できる仕組みづくりを行う。
- ・ 駿河台VCでは2010年度から学生スタッフを募集し「エコキャップ運動」を本格稼働させた。2012年度以降も継続して積極的に取り組んで行く。また，「エコキャップ週間」の開催を継続し，各種イベントを通じてエコキャップ運動の啓蒙に努めて行く。  
さらに，「災害救援ボランティア講座」修了者の中で希望者が登録をしている「災害救援班」の活動を活発化させるため，「防災探検隊」を立ち上げ，明大生を対象とした防災活動を行う。活動の一環として「リバティタワー防災マップ作成」に取り組む。将来的には，防災マップ作成の対象建物を広げていく。
- ・ 和泉VCでは，ボランティア活動に参加したい学生の拡大を目指し，嘱託職員とボランティアサークルの学生を中心に協力と連携を深め，2012年度には参加学生の輪を広げるための積極的な活動を試験的に実施できるよう取り組んで行く。

### (2) 長中期的に取り組む改善計画

- ・ VC運営委員会で業務計画を検討し，VCの理念・目的等を定期的に検証する仕組みを導入する必要がある。
- ・ 今後，ボランティア活動のさらなる活性化が予想されるので，VCを専門に担当する専任職員が必要となる。

## 5 根拠資料

- 資料1-1 明治大学ボランティアセンター規程
- 資料1-2 外部団体の分類と外部団体からの情報の取り扱いについて
- 資料1-3 ボランティアセンター運営委員会議事録
- 資料1-4 明治大学生田ボランティアセンター 2011年度 活動報告書
- 資料1-5 和泉VC 「ぼらばん」(ボランティア活動紹介パンフレット)

資料1-6 生田VC 「生田ボラ」

資料1-7 明治大学VCホームページ (<http://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/index.html>)

資料1-8 明治大学VCホームページ「センターのご紹介」  
(<http://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/about.html>)

## II. 教育研究組織

### 1 目的・目標

#### (1) 教育研究組織の編成方針

本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として、学長の下に明治大学ボランティアセンター（以下、VC）を設置している（資料2-1）。

### 2 現状（2011年度の実績）

#### (1) センター、委員会等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。

##### ①教育研究組織の編成原理

VCは、VC運営委員会と、その下で3キャンパスに組織されているボランティア活動支援分科会とから成り立っている（資料2-1）。

VC運営委員会は、センター長（学生部長）と副センター長（駿河台・和泉・生田キャンパスの担当3名）、および運営委員（学長が指名する専任教職員6名、学生支援部長、学生支援事務長、和泉および生田学生支援事務長4名）から組織されている（資料2-1）。VC運営委員会は、年1回、前年の業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業を行っている。VCの運営は、キャンパスを単位として考えられている。教員では、センター長の下に置かれ、それを補佐する副センター長が3キャンパスVCの実質的な統括をし、その下に各キャンパスに2名の運営委員が置かれている。事務職員も同様に、学生支援部長の下に、3キャンパスの学生支援事務長が置かれている（資料2-1）。

3キャンパスの実質的な運営を担うボランティア活動支援分科会は、各キャンパス担当の副センター長及び専任教職員のうちからセンター長が指名する分科会委員（3名以内）によって構成されている（資料2-1）。VC運営委員会における各キャンパスの副センター長が各分科会の座長を務めるほか、2名の運営委員、学生支援事務長が、ボランティア活動支援分科会の中心的なメンバーとなっている。各キャンパスの実情に即した運営が、VCの特徴となっている。

VCには、センター担当（他業務と兼務）の学生支援事務室所属の専任職員4名（3キャンパス）と、専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（各キャンパス1名）を置いている。

なお、VCは2008年度の設立にあたって、学部等で行われている学習支援を主体とするボランティア活動には関与しないとの暗黙の「紳士協定」があった。そのために、学習支援としてのボランティア活動の促進やその支援は行っていない。

## ②実績や資源から見た理念・目的の適切性

全学報告書第8章参照。本格的な活動を開始して4年目にあたる2011年度、各VCの活動は充実したプログラムへと進化しきれていない部分を内包しつつも、活動のプログラム・メニューとしてはほぼ出揃ってきている。この実績からみて、VCの理念と目的は十分に適切であると考えられる一方で、活動が本格化し活発化するに伴って、それを担う組織に関しては、ボランティア・コーディネーターが配置されていないこと、VC運営委員会及び3キャンパスに活動支援分科会の構成員が不足していること、VCを担当する専任職員が配置されていないこと、などの組織的な問題が表面化している（資料2-2）。

そのため、2011年度には、これまで懸案となっていた、3つのキャンパスVCへのボランティア・コーディネーターの配置と、それに伴うVCの組織変更を内容とする政策経費の要望を提出することにした（資料2-2）

## ③ 学術の進展や社会の要請と適合性

各キャンパスのVCは、それぞれのキャンパスが属している地域と連携した活動を目指している。現状の組織において、生田VCに関しては、生田キャンパス活動支援分科会及び理工学部・農学部の専任教員との連携の下で、社会の要請に適合した活動を行っているといえる（資料2-3）。しかし、駿河台・和泉のVCに関しては、それぞれが十分に組織化されておらず、社会的な要請に対して十分に応えているとはいいがたい面がある。

## (2) 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。

VCの組織の適切性を定期的に検証する仕組みは、まだ導入されていない。現状では、VC運営委員会が定期的ではないものの、次年度の業務計画を立てる段階でVCの組織について、VCの目的との関係において検討し、組織を見直すことになっている。こうした組織見直しに関する定期的な検証システムの構築には手が付けられていない。

## 3 評 価

### (1) 効果が上がっている点

- ・ VC運営委員会の下に3キャンパスのボランティア活動支援分科会は、駿河台・和泉キャンパスにおける活動の後れや、情報発信の不十分性などの問題を残しながらも、各キャンパスの特色を活かした活動メニュー・プログラムを整備してきている。
- ・ 他大学のボランティアセンター担当者やボランティア関係団体の担当者との情報及び意見交換をすることにより、職員および嘱託職員のSDと、日常業務の方法・課題についての改善を、ある程度まで図ることができるようになった。
- ・ VCでは、2008年度の本格的な活動開始以来、専門知識を有するボランティア・コーディネーターが配置できていないことが1つの重要な課題であった。2011年度、VC運営委員会では、ボランティア・コーディネーターを配置したVCの枠組みに関する審議を行い、その配置について大学に積極的に働きかけをすることにした。その結果、2011年度中にボランティア・コーディネーター（2名）の採用に目途を付け、2012年度からVCの活性化に向け体制を整えた。

### (2) 改善すべき点

- ・ VC運営委員会において、定期的な業務検証と併せて、それを踏まえた組織の適切・適合性についても定期的に検証する仕組みを導入する必要がある。
- ・ 各VCの活動を充実したプログラムへと進化させていくには、現状の人員構成では限界がある。現行の嘱託職員3名の他に、2012年4月から専門知識を有するボランティア・コーディネーター2名（和泉・駿河台地区担当1名、生田地区担当1名）を採用できる見込みになったが、各キャンパスVCにボランティア・コーディネーター1名として計3名の配置が必要である。
- ・ ボランティア・コーディネーター2名の採用を受けて、VCの活動のさらなる活発化、なかでも和泉VCにおける組織の見直しと、和泉VCにおける活動を駿河台VCにおけるそれへと継続できる仕組みづくりを行う。
- ・ VCの活動の活発化と、理念・目的及びその活動内容を大学構成員に対してより効果的に情報発信していくために、VC運営委員会および3キャンパスVCにおけるボランティア活動支援分科会の構成員を増員する必要がある。
- ・ VCの活動が本格化する過程において、今後、学部等で行われているボランティア活動との連携・協力の課題は、遠からず表面化するものと思われる。そのため、教学組織とどのような連携・協力が可能であるかについて、センター事務担当者間で協議の上、VC運営委員会において検討の俎上に載せる必要がある。

#### 4 将来に向けた発展計画

##### (1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

- ・ VC運営委員会の開催を半年ごとに定期化し、これまでの1年ごとの業務検証を、半年ごとの業務検証へと変更する。
- ・ VC運営委員会において、組織としての適切性適合性を、逐次検証するようにする。
- ・ VC運営委員会および3キャンパスVCにおけるボランティア活動支援分科会の構成員を増員する。

##### (2) 長中期的に取り組む改善計画

- ・ VC運営委員会において、VCの理念・目的や社会的要請を踏まえた組織の適切性・適合性についても定期的に検証する仕組みを導入する必要がある。
- ・ 今後さらに駿河台VCにもボランティア・コーディネーターを配置し、ボランティア・コーディネーター3名体制にすることが必要である。そのため、VC運営委員会は引き続き、ボランティア・コーディネーターの増員と、それに伴う3キャンパスVCの組織的な見直しを進めていく。

#### 5 根拠資料

資料2-1 明治大学ボランティアセンター規程

資料2-2 ボランティアセンター運営委員会議事録

資料2-3 明治大学生田ボランティアセンター 2011年度 活動報告書

## VIII 社会連携・社会貢献

### 1. 目的・目標

#### (1) 社会連携・社会貢献の方針

学生部に関わるものでは、「明治大学ボランティアセンター規程」第1条（資料8-1）の目的を受けて、正課外教育および課外活動を通じて行われる社会・地域貢献を推進し、その活動が円滑に行われるように指導・助言するとともに、そうした活動のための条件整備を進めることを目的とする（資料8-2）。

### 2. 現状（2011年度の実績）

#### (1) 社会との連携・協力に関する方針を定めているか

「明治大学ボランティアセンター規程」第1条（資料8-1）で設定されている。

#### (2) 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか

VCに関係するボランティア活動およびその支援については、以下の2つが重要である。

- ①まず、VCは、本学に存在する6つのボランティア系公認サークルとの連携を図りながら、ボランティア活動及びそれへの支援を継続している。これについては、VCに関係するものを下記の取り組みの中に反映させてあるので、これを参照のこと。
- ②第2は、VC独自の取り組みである。VCは、各キャンパスの地元自治体や社会福祉協議会（ボランティアセンター）と連携し、ボランティアに関する情報を集約したものを学内のボランティア情報専用掲示板に貼り出し、情報の提供・周知に努めている。また、NPO、NGO等各種団体からのボランティア募集情報は、学生へのボランティア情報提供に関するガイドラインを定め、それに適う情報を学生に提供している。

各キャンパスのVCは、キャンパスの所在する自治体と連携を図りながら、それぞれ活動の具体化を図り、次のような独自の取り組みを行っている。

#### 〔駿河台VC〕

駿河台VCは、千代田区と連携して「防災」をテーマに活動しており、2011年度には下表の活動を行った。また、東日本大震災復興支援募金に多数の学生が参加した。

活動	開催日時	開催場所	参加者
「災害救援ボランティア講座」 （前期開催）	6月12日（日）・18日 （土）・19日（日）	リバティタワー・ 本所防災館	32
「災害救援ボランティア講座」 （後期開催）	10月22日（土）・29日 （土）・30日（日）	リバティタワー・ 本所防災館	33
東日本大震災に伴う「災害ボランティ ア活動希望学生対象事前研修」開催	5月14日（土）	リバティタワー	89

[和泉VC]

和泉VCは、杉並区と連携して、ボランティアサークルとの協力の下で知的障がい者支援から高齢者支援、子供支援に至るまで「福祉」をテーマに活動をした。毎週火曜日、ボランティアサークルが中心となり、スワンベーカーリー十条店に勤務する障がい者と協働してパンの販売を実施している。また、キャンパス最寄り駅である明大前駅周辺の清掃ボランティア活動を2011年度は年間37回実施し、延べ265名の学生ボランティアが参加した。本格的な活動を開始して4年目にあたり、ボランティア系のサークルとの連携については、ほぼ当初予定していたものが出揃って、プログラムも充実してきている。さらに、東日本大震災復興支援募金活動やタイ大洪水復興支援募金活動にも多数の学生が参加した。

なお、2009年度に開催した「初級ボランティア講座」は、2010年度から、学部間共通総合講座「ボランティアセンター発のボランティア入門講座」として正課教育のプログラムになった。2011年度も、VCの活動プログラムから除外してある。

以下に、2011年度に実施した活動のうち、特筆すべきものを挙げる。

活動	開催日時	開催場所	参加者
ECOども※1	6月11日(土)	西荻窪児童館	17
ECO運動会※2	11月5日(土)	和泉体育館	32
杉並区南相馬市支援(チャリティーバザー等イベント支援)	5月29日(日), 12月18日(日)	杉並区立柏の宮公園他	6
杉並区復興支援事業(裏磐梯雪まつりイベント支援)	2月24日(金)~26日(日)	福島県北塩原村	9
ボランティアサークル5団体活動報告会	3月23日(金)	和泉キャンパス	43

※1「ECOども」は、ごみ分別クイズ・ゲームなどにより環境問題への理解を深める児童向けイベント。

※2「ECO運動会」は、小学1年~4年を対象の環境教育を目的とした運動会。

[生田VC]

生田VCは、川崎市多摩区等と連携して「里山」をテーマにして、特徴ある活動を行うことを目指している。3キャンパスのVCの中では、最も早く、その特長を活かした活動が進められているとともに、M-N a v iプログラムとの連携についても充実している。なお、「里山班」の活動は、学部間共通総合講座「里山入門」がすでに正課教育のプログラムに組み込まれていることが、その母体を創り出す上で、重要な役割を果たしていることを付言しておく。主な活動としては、次のとおりである。

生田VCでは、里山ボランティアを中心に、川崎市多摩区との地域連携による行事など「里山」をテーマとした活動を展開している。この活動の中核となるのが生田VC「里山班」で、「里山班」学生スタッフ17名が中心となり、草刈り等の保全活動、近隣住民等も参加しての植物観察会、野鳥・水辺の生物調査等を開催した。また、里山の環境保全ボランティア活動を通じて、ボランティア学生スタッフと生田地区ボランティア活動支援分科会メンバーとの連携が図られている。

2009年度に発足した「エコキャップ班」は6名の学生スタッフが中心となり、生田キャン



ンパス内のエコキャップの回収活動を継続するとともに、学生スタッフ自らが企画したエコキャップについてより理解を深める活動や近隣との連携・交流活動も行っている。

「里山班」「エコキャップ班」とも生田キャンパスに本拠を置く大学公認ボランティアサークル（3 団体）と連携しての活動をしており、生田VCではこれらボランティアサークルに対しても、活動のサポートを行っている。

2011 年度には、東日本大震災を受けて、被災地支援、防災等に関心のある学生 10 名により「震災班」が発足した。義援金の募金活動、被災地復興支援ボランティア活動、支援の在り方に関する勉強会等を行った。なお、2011 年度は東日本大震災の影響で、当初の活動計画から変更を余儀なくされ、予定していた活動で実施ができなかったものもあった。

また、2012 年度からの「明治大学黒川農場」の開設に合わせて、里山班の活動するフィールドを拡大する予定のため、今後は、里山班のみならず生田VCのこれまでの4年間の活動を検証し、新たな次のステップに向けた活動のステージを確立する。その第一段階として、2011 年度第 4 回生田地区ボランティア活動支援分科会において、生田VCでは、自然共育（しぜんきょういく）によって、自分らしい興味を活かして生きる「個」の強い人物を学生・教職員が共に育むことをこれからの基本コンセプトとして活動していくことを決め、生田VCのニックネームを「こなら楽舎（こならがくしゃ）」とした。このニックネームは、持続可能な環境保全の象徴となる樹木であるコナラ（生田キャンパスに生育）にちなんだもので、コナラのように多様な生物が集い成長する場として、様々な個性が楽しく開花する場としての生田VCとなることを目指すこととした（資料8-3）。

さらに、2011 年度から、上記各班の代表、大学公認ボランティアサークルの代表及び学生有志9名による「学生委員会」が発足した（資料8-3）。これは、各班の活動、班同士やボランティアサークルと連携した活動の増加などで、生田VCに関わる学生間の交流や活動が活発になってきているため、これらをサポートする目的で、学生からの自主的な提案により設立したものである。同委員会では、月1回の定例会議で各班及びボランティアサークルの活動状況についての情報共有と意見交換を行うほか、特定の班やサークルの活動に属さない活動の企画・運営、生田VC情報誌「生田ボラ」の編集発行（資料8-4）、ホームページの作成（資料8-5）、生田VC年間活動報告書（資料8-6）の作成等を行っている。

以下に、2011 年度に実施した活動のうち、主なものを挙げる。

【生田ボランティアセンター】

活動	開催日	開催場所	参加者
東日本大震災義援金募金活動	4月4日（月）	生田キャンパス	10
勉強会「震災現場を見て」	4月4日（月）	生田キャンパス	18
ボランティア活動説明会「ボランティアをするために」	5月16日（月）	生田キャンパス	10
学生スタッフ研修会	6月13日（月）	生田キャンパス	15

初級ボランティア講座「ボランティアをするときには」	7月2日(土)	生田キャンパス	14
多摩区3大学連携フェア(活動内容展示)	3月17日(土)	川崎市多摩区役所	6

#### 【学生委員会】

活動	開催日	開催場所	参加者
ボランティアWEEK・春(企画, 運営)	5月17日(火) ~21日(土)	生田キャンパス	9
ボランティア体験発表会	5月17日(火)	生田キャンパス	13
ボランティアカフェ	5月20日(金)	生田キャンパス	7
オープンキャンパス(「生田キャンパス学生のボランティア活動」展示)	8月20日(土)	生田キャンパス	6
生田清掃運動会	10月17日(月)	生田キャンパス周辺	14
生明祭(ボランティアに関する意識調査実施)	11月18日(金) ~20日(日)	生田キャンパス	9
2011年度生田ボランティアセンター活動報告会(企画, 運営)	3月22日(木)	生田キャンパス	23

※これらの活動の他に、生田ボランティアセンター情報誌「生田ボラ」(創刊号)を11月に編集・発行した(資料8-4)。

また、学生スタッフによる活動の方針策定・内容検討・検証等のための会議を月1回開催した。

#### 【里山班】

活動	開催日	開催場所	参加者
里山班と行く小川のお散歩と草刈り体験	5月19日(木)	生田キャンパス	14
黒川農場合宿	6月10日(金) ~11日(土)	黒川農場	16
オープンキャンパス出展「竹林管理とその利用」(活動紹介, 成果発表)	8月3日(水)	生田キャンパス	21

里山ワークキャンプ in 庄原 参加	8月19日(金) ～25日(木)	広島県庄原市	8
生明祭(竹箸作り, 里山の生物 展示, 小川探検ツアー等活動成 果発表)	11月18日(金) ～20日(日)	生田キャンパス	約200 (来場者)
川崎市花と緑の交流会(成果発 表)	11月26日(土)	川崎市高津市民館	5
他大学交流(日本大学)「環境 活動の問題点」(意見・情報交 換)	12月15日(木)	生田キャンパス	10
全国大学生環境活動コンクー ル(成果発表)	12月26日(月) ～27日(水)	国立オリンピック 記念青少年総合セ ンター	5
「黒川どんと祭」里山見学参加	1月14日(土)	川崎市麻生区黒川	3
他大学交流(日本大学)「環境 調査」(見学, 意見交換)	2月15日(水)	藤沢市天神谷戸	5
里山ワークキャンプ in 庄原 参加	2月17日(金) ～23日(木)	広島県庄原市	8
2011年度生田ボランティアセ ンター活動報告会(活動報告)	3月22日(木)	生田キャンパス	23

※これらの活動の他に、年間を通して植生管理・調査・観察等平常の活動を行った。

また、教職員及び学生スタッフによる活動の方針策定・内容検討・検証等のための会議を週1回(毎週火曜日)開催した。

#### 【エコキャップ班】

活動	開催日	開催場所	参加者
キャップリサイクル工場見学	4月23日(土)	藤沢市 服部商店綾瀬工場	3
エコキャップ活動説明会(新入 生対象の取組の紹介)	5月18日(水)	生田キャンパス	11
エコキャップ回収と寄付	6月21日(火)	生田キャンパス	6
オープンキャンパス出展「エコ キャップの流れ」(活動紹介,	8月3日(水)	生田キャンパス	6

成果発表)			
エコキャップ回収と寄付	11月4日(金)	生田キャンパス	6
生明祭(キャップ回収統計及び 考察結果展示, 活動内容発表)	11月18日(金) ~20日(日)	生田キャンパス	約200 (来場者)
菅こどもわいわいまつり(子供 向け展示・活動内容発表, 交流)	12月23日(金)	川崎市多摩区 菅こども文化セン ター	5
エコキャップ回収と寄付	2月6日(月)	生田キャンパス	6
2011年度生田ボランティアセ ンター活動報告会(活動報告)	3月22日(木)	生田キャンパス	23

※これらの活動の他に、教職員及び学生スタッフによる活動の方針策定・内容検討・検証等のための会議を週1回(毎週月曜日)開催した。

2011年度は67,840個のキャップを回収し、回収団体に寄付した。同班が回収したキャップは累計212,120個で、これは265人分のポリオワクチン代に相当する。

#### 【震災班】

活動	開催日	開催場所	参加者
東日本大震災義援金募金活動	4月4日(月)	生田キャンパス	10
勉強会「今自分にできること」	5月21日(土)	生田キャンパス	8
オープンキャンパス出展「震災 復興支援活動報告」(展示発表)	8月20日(土)	生田キャンパス	10
生明祭(被災地支援活動報告発 表, 身近な防災テクニック展 示)	11月18日(金) ~20日(日)	生田キャンパス	約200 (来場者)
2011年度生田ボランティアセ ンター活動報告会(活動報告)	3月22日(木)	生田キャンパス	23

※これらの活動の他に、教職員及び学生スタッフによる震災支援の在り方の検討を月1回開催した。

### 3 評 価

#### (1) 効果が上がっている点

VCにおける様々なプログラムを通じて、学生の社会性及び自主性が涵養されるとともに、社会・地域との新たな関わりが生まれている。

## (2) 改善すべき点

VCについては、3 キャンパスにおいてその活動を具体化した。今後、活動を続けていくためのさらなるシステムやルール作りを急ぐとともに、活動の範囲や輪をさらに推進し発展させていく必要がある。

そのためにも、3 キャンパスVCすべてに、ボランティア・コーディネーターの配置が必要である。

## 4 将来に向けた発展計画

### (1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

ボランティア・コーディネーター2名の配置（和泉VC・生田VC）の決定を受けて、2012年度は和泉VCにおける活動の範囲や活動する学生の輪をさらに拡大する。併せて、和泉VCでボランティア活動をした学生が、駿河台VCにおいても継続できる仕組みづくりを行う。

### (2) 長中期的に取り組む改善計画

VCをより充実、発展させるためには、全キャンパスに専門知識を有するボランティア・コーディネーターが求められる。

## 5 根拠資料

資料8-1 明治大学ボランティアセンター規程

資料8-2 2012年度 教育・研究に関する長期・中期計画書（学生部）

資料8-3 生田キャンパスボランティア活動支援分科会議事録

資料8-4 生田VC 「生田ボラ」

資料8-5 明治大学VCホームページ「施設案内」

(<http://www.meiji.ac.jp/campus/volunteer/facility.html#ikuta>)

資料8-6 明治大学生田ボランティアセンター 2011年度 活動報告書

## Ⅸ 管理運営・財務

### 【Ⅸ-1 管理運営】

#### 1 目的・目標

##### (1) 管理運営方針

学生のボランティア活動に関する情報収集、広報活動、相談、支援、調査、人材養成等の実務を通し、ボランティアセンター（以下、VC）の目的を達成する（資料9-1）。

#### 2 現状（2011年度の実績）

##### (1) 大学の理念・目的の実現に向けて、管理運営方針を明確に定めているか

学校法人明治大学予算管理要領第4条第1項の規程（資料9-2）に基づく教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書を作成し対応している（資料9-3）。

## (2) 明文化された規定に基づいて管理運営を行っているか

明治大学ボランティアセンター規程を整備している。センター長は学生部長が務め、学長の下でセンター業務を総括し、センターを代表する。

## (3) 大学業務を支援する事務組織が設置され、十分に機能しているか

VCに関する事務は、学生支援部学生支援事務室が行う。センター担当（他業務と兼務）の学生支援事務室所属の専任職員4名（3キャンパス）と、専らセンター業務に従事する嘱託職員3名（各キャンパス1名）を置いている。

## (4) 事務職員の意欲・資質の向上を図るための方策を講じているか

### ① 人事考課に基づく適正な業務評価と処遇改善

当運営委員会にはなじまない項目である。

### ② スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施状況と有効性

学外で開催される研修会等に専任職員及び嘱託職員を派遣し、資質向上に努めている。

## 3 評 価

### (1) 効果が上がっている点

- ・ SDに関して、他大学のボランティアセンター担当者やボランティア関係団体の担当者との情報及び意見交換することにより、日常業務の方法・課題について改善を図ることができる。

### (2) 改善すべき点

- ・ 企画立案から実施までが、VC運営委員会および担当の専任職員・嘱託職員に限られており、VCが中心となって行う活動の輪がなかなか広がらない。
- ・ SDに関して、専任職員及び嘱託職員ともに、ボランティアに関して専門的に学んだ職員がいないために、独自の企画立案や外部団体とのネットワークの形成に制約がある。VCの活動全般を指導し、プログラムの一層の充実にあたって大きな限界があるので、専門知識を有するボランティア・コーディネーターの採用が求められる。

## 4 将来に向けた発展計画

### (1) 当年度・次年度に取り組む改善計画

特に文科系の学生が学ぶ和泉キャンパスと駿河台キャンパスでボランティア活動が分断されている現状を分析し、1年から4年に至るまでボランティア活動が継続できる体制を検討する。

また、駿河台VCにボランティア活動を希望する学生の活動場所を確保できるよう検討する。併せて駿河台VCに専門知識を有するボランティア・コーディネーターの採用を検討する。

### (2) 長中期的に取り組む改善計画

現行制度においてVCの業務を高度化するために、専任職員の配置も視野に入れる必要が

ある。現行では、各キャンパスボランティアセンターともに専任職員は配置されておらず、学生支援事務室職員が兼務で行っており、実務的にみて負担増となっている。このため、各キャンパスボランティアセンターを統括し、企画・運営をする専任の職員を配置することが急務である。

将来的には、ボランティア活動の活性化を見込み、学生部の下に設置されているボランティアセンターを独立した組織として更なる展開が可能か検討を進める必要がある。

## 5 根拠資料

資料9-1 明治大学ボランティアセンター規程第1条

資料9-2 学校法人明治大学予算管理要領第4条第1項

資料9-3 2012年度 教育・研究に関する長期・中期計画書（学生部）

# X 内部質保証

## 1 目的・目標

### (1) 内部質保証の方針

ボランティアセンター（以下、VC）は、本大学の学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的として設置された（資料10-1）。この目的に基づいてセンターの事業が実施されているかを検証するため、自己点検・評価を実施している。

## 2 現状（2011年度の実績）

### (1) センター、委員会等の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか

自己点検・評価を実施している。

### (2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか（学外者の意見の反映などを含む）

VC運営委員会で対応している。自己点検・評価を実施し、その結果を次年度の「教育・研究に関する年度計画書及びこれに関する長期・中期計画書」（資料10-2）に反映することで、改革・改善につなげている。

本学に対する文部科学省からの指摘事項及び大学基準協会からの勧告等があった場合は、自己点検・評価全学委員会を対外的な窓口として、学部等自己点検・評価委員会で対応することになっている。

## 3 評価

### (1) 効果が上がっている点

VC運営委員会において、定期的ではないものの検証が行われ、VCの目的を達成するために、各キャンパスのボランティア活動支援の運営が徐々に円滑化しているし、そこでのプ

プログラムも各キャンパスの特徴を活かしたものに進化・豊富化されている。

## **(2) 改善すべき点**

VC運営委員会の開催を定期化する必要がある。その上で、定期的な業務の検証と、それを踏まえた計画策定作業を行っていく必要がある。

## **4 将来に向けた発展計画**

### **(1) 当年度・次年度に取り組む改善計画**

VC運営委員会を半年に1度（3月，9月），定期的に開催する。

### **(2) 長中期的に取り組む改善計画**

- ・ まず，VC運営委員会の課題として，VCの目的を効果的に達成する観点から，定期的に業務，組織，管理・運営を検証するとともに，それを踏まえた計画策定作業を行っていく体制を整備する。1年ごとの業務の検証と，それを踏まえた計画策定を定着させる。
- ・ VC運営委員会に，自己点検・評価を担当するワーキンググループ等の設置を検討する。

## **5 根拠資料**

資料 10-1 明治大学ボランティアセンター規程

資料 10-2 2012年度 教育・研究に関する長期・中期計画書（学生部）